

公益社団法人 日本地震工学会 第4回理事会議事録

A. 日 時 : 2013年9月18日(水) 17:00~20:00

B. 場 所 : 専売会館 8階会議室

C. 出席者 : (会 長) 安田進

(副 会 長) 当麻純一、山崎文雄、福和伸夫

(担当理事) 福喜多輝、新海元、矢代晴実、和泉信之、加藤研一、松田隆、年縄巧、横井俊明、富田孝史、久田嘉章、古屋治、鳥井信吾、境茂樹、塚本良道

(監 事) 田蔵隆

(欠 席) 清野純史、田村敬一、五十嵐克哉

オブザーバー出席 : 鳴原毅事務局長、吹野美絵、金田義行(海洋開発機構)

D. 提出資料

- 資料 04-01 第3回理事会議事録確認(新海理事)
- 資料 04-02 会務報告(福喜多理事)
- 資料 04-03 日本地震学会・日本地震工学会 会長懇談会(福喜多理事)
- 資料 04-04 関東地震90周年記念シンポジウムの報告(加藤理事)
- 資料 04-05 ジョン・ミルン展について(福喜多理事)
- 資料 04-06 E-ディフェンス見学会の報告(境理事)
- 資料 04-07 入退会者(加藤理事)
- 資料 04-08 共催・後援・協賛等(新海理事)
- 資料 04-09 委員会委員の委嘱(更新分)(新海理事)
- 資料 04-10 2013年日本地震工学会年次大会、国際シンポジウム(古屋理事、清野理事)
- 資料 04-11 事業企画委員会の活動について(鳥井理事、境理事)
- 資料 04-12 日本学術会議シンポジウム(当麻副会長)
- 資料 04-13 会員制度の見直しについて(加藤理事、松田理事)
- 資料 04-14 原子力安全のための耐津波工学に関するシンポジウム開催について(福和副会長)
- 資料 04-15 選挙管理委員会からの報告(加藤理事)
- 資料 04-16 役員候補推薦委員会からの報告(福喜多理事)
- 資料 04-17 会誌編集委員会報告(久田理事)
- 資料 04-18 News Letter Vol.2, No.3について(富田理事)
- 資料 04-19 論文集英文化について(年縄理事)
- 資料 04-20 受託研究の経費について(福喜多理事)
- 資料 04-21 会計報告(矢代理事)

E. 議題

E 1. 報告事項

1) 議事録確認 第3回理事会議事録確認（新海理事、資料 04-01）

新海理事より資料 04-01 を用いて、第3回理事会議事録について説明があり、本内容にて了承された。

2) 会務報告（福喜多理事、資料 04-02）

福喜多理事より、資料 04-02 を用いて、8月2日～9月18日までの会務報告がされた。

3) 会計報告（矢代理事、資料 04-21）

矢代理事より資料 04-21 を用いて、5月1日～8月31日までの会計報告がされ、以下の内容が確認された。

- ・上期終了時のキャッシュフローを次回の正副会長会議（11月13日）に提示する。
- ・現在の広告掲載は非法人会員の地震関連メーカー多いので、各理事が関連する機関に対して広告掲載の声かけをする。

4) 日本地震学会・日本地震工学会 会長懇談会（福喜多理事、資料 04-03）

福喜多理事より資料 04-03 を用いて、2学会会長懇談会の議事録について説明があり、「〇〇地震△△周年」として過去の被害地震について、学会特別セッションあるいは共同シンポジウムを企画することが合意された旨の報告がされた。

5) 関東地震90周年記念シンポジウムの報告（加藤理事、資料 04-04）

加藤理事より資料 04-04 を用いて、「関東地震90周年記念シンポジウム」の参加報告があり、多数の参加者が集まり、大変盛況であった旨の説明がされた。

6) ジョン・ミルン展について（福喜多理事、資料 04-05）

福喜多理事より資料 04-05 を用いて、ジョン・ミルン展の報告があり、9月6日に天皇、皇后両陛下が御覧になられたことが紹介された。

7) E-ディフェンス見学会の報告（境理事、資料 04-06）

境理事より、資料 04-06 を用いて、「E-ディフェンス免震建物加振実験見学会の収支決算書」の報告がされた。また、当日の実験内容についての報告があった。

8) 事務局パート体制について（鳴原事務局長、資料番号なし）

鳴原事務局長より、9月1日より2名の新規パートを採用したこと、1名が9月末で退職するこ

と、これらに伴う事務局の体制について報告があり、了承された。

E 2. 議 案

9) 入退会者（加藤理事、資料 04-07）

加藤理事より資料 04-07 を用いて、「入退会者」の報告がされ、2013 年 9 月 18 日現在、入会者は正会員 1 名、学生会員 15 名、法人会員 1 名との報告があり、承認された。

以上の結果、会員数は、名誉会員 28 名、正会員 1,122 名、学生会員 124 名で、現在総数は 1,274 名、法人会員 93 社となることが確認された。

10) 共催・後援・協賛等（新海理事、資料 04-08）

新海理事より資料 04-08 を用いて、以下に示す協賛(2 件)の報告があり、承認された。

協賛依頼：The 12th International Conference on Motion and Vibration Control

(主催：日本機械学会)

協賛依頼：計算力学技術者 2 級認定試験対策講習会

(主催：日本機械学会)

11) 委員会委員の委嘱（更新分）（新海理事、資料 04-09）

新海理事より資料 04-09 を用いて、「委員会委員の委嘱」について説明がされ、国際委員会の委員が承認された

12) 2013 年日本地震工学会年次大会、国際シンポジウム

(古屋理事、清野理事、資料 04-10-01、資料 04-10-02)

古屋理事より資料 04-10-01 を用いて、2013 年日本地震工学会年次大会の進捗状況について説明がされ、以下の内容が承認された。

- ・9 月 18 日時点で論文の申込件数が 16 件と少なく、発表予定件数を下回ることから論文投稿の申込み締め切りを延長する。

なお、国際シンポジウムの進捗状況として、abstract の応募が 34 件、本論文の締め切りが 10 月 11 日（金）であることが確認された。

E 3. 懇談事項

13) 事業企画委員会の活動について（鳥井理事、境理事、資料 04-11）

海洋研究開発機構（JAMSTEC）の金田様より、資料 04-11 を用いて「南海トラフ広域地震防災研究プロジェクト」について以下の説明があった。

- ・平成 25 年～32 年度までの 8 年間の活動（プロジェクトリーダー：JAMSTEC 金田氏）
- ・プロジェクトは、三つの分野で構成：防災分野（名古屋大学：福和氏）、シミュレーション(東

京大学：古村氏)、調査・観測分野 (JAMSTEC：金田氏)

- ・防災分野は地域対応力の強化を目指しており、5つの地域研究会による地域ごとの課題抽出とその解決のための実践的な防災・減災対策および地域に根ざした情報発信を行っていく。
- ・各地域研究会は年2回の開催を考えており、最新の話題提供と質疑応答を含めて1時間を予定している。
- ・大きなプロジェクトのため学会との連携が必須と考えており、地域研究会における日本地震工学会からの話題提供の協力をお願いしたい。

これに対して、地域対応力の向上と成果の社会実装という考え方に賛同できることから、地域研究会の活動と一緒に取り組むことが確認された。

なお、金田様に「南海トラフ広域地震防災研究プロジェクト」に関して、今年度 JAEE 会誌で企画している南海トラフ特集号への寄稿、ならびに JAEE 年次大会における講演の依頼を行い、今後、担当理事と検討を進める事となった。

14) 日本学術会議「南海トラフ地震に学界はいかに向き合うか」シンポジウム

(当麻副会長、資料 04-12)

当麻副会長より資料 04-12 を用いて、12月2日(月)に開催される日本学術会議「南海トラフ地震に学界はいかに向き合うか」シンポジウムの準備委員会参加の報告があり、本会は、テーマ1：事前防災への取組みにて当麻副会長が発表する旨の報告がされた。

15) 会員制度の見直しについて (松田理事、加藤理事、資料 04-13-01、資料 04-13-02)

松田理事より資料 04-13-1 を用いて、シニア会員設置案の説明がされ、以下の意見が出された。

- ・新会員の名称はシニア会員が適切である。
- ・新しい制度を設ける上で、定款を変更する必要があるため、該当する箇所の案を会員理事が作成する。
- ・シニア会員の中に特典の異なるカテゴリーがあるのは制度として複雑ではないか。
- ・シニア会員は正会員の特典と比べて、役員の選挙権と被選挙権がない、総会における議決権がない、会誌を配送しない、とし、その代わり会費を 3000 円 (案) に抑えるというのがよいのではないか。
- ・納入方法は年会費方式が適切である。
- ・本会設立後 13 年経過していることから、10 年以上正会員であり、2014 年 3 月時点で満 65 歳以上の正会員をシニア会員とするのがよいのではないか。

以上の討議を踏まえ、シニア会員制度の設置は承認された。次回理事会にて、シニア会員制度の内容の取り纏め、定款の変更案を会員部会から提案することが確認された。

続いて、加藤理事より資料 04-13-02 を用いて、会員情報統計データに基づく日本地震工学会の現状分析の説明がされ、以下の意見が出された。

- ・防災講演会など技術者が多く集まる場所に本会のパンフレットを置き、活動内容をもっと社会に幅広く周知すべきである。
- ・会員増加に向け、若い人のみをターゲットとした方策は本当に正しいのか。地震工学に関する横断的な活動を行うという本会の特色から考えると、これまでのように20歳代の正会員の増加のみに固執せず、ある程度の業務や研究経験を積んだ30歳～40歳代に焦点をあてるのも一案ではないか。

以上の討議を踏まえ、下記内容が確認された。

- ・強震記録DVD購入団体のうち非法人会員の団体に対して、会長と副会長の連名で法人会員のメリットをお知らせする封書を出す。
- ・本会のパンフレットの作成、及び入会メリット取り纏めを会員部会にて対応する。
- ・ホームページの会員のみ限定したサイトについて、非会員の人も一部閲覧できるように門戸を広げることを情報コミュニケーション委員会にて検討する。
- ・会員増加に向けターゲット層をどこに置くかは、将来の本会のあり方に大きく関与するので、将来構想委員会にて検討する。

16) 原子力安全のための耐津波工学に関するシンポジウム開催について（福和副会長、資料04-14）

福和副会長より、資料04-14を用いて、「原子力安全のための耐津波工学に関するシンポジウム(案)」について以下の内容が報告された。

- ・開催主旨は、「原子力安全のための耐津波工学の体系化に関する調査委員会」の1.5年間の活動報告を行うと共に、原子力安全に対する学術の役割・責任について検証する機会とすることである。
- ・開催日時は、平成26年3月20日、開催場所は建築会館ホールを予定している。
- ・収支計画書、講演者といった運営に関する詳細内容が確定したら、理事会にて承認を得る。

これに対して、本件は社会ニーズに合致していることから、シンポジウム論文集を出版物とすることを検討してはどうかとの意見があったが、準備期間がないことから今回は見送ることとなった。

ただし、今後に向けて、学会として出版物を発行する場合の手続きについて、総務部会で検討することとなった。

17) 選挙管理委員会からの報告（加藤理事、資料04-15）

加藤理事より資料04-15を用いて、今年度の日本地震工学会役員選挙の公示案内の説明がされた。JAEE ニュース(9月1日発行)にて今年度次期会長候補選出のための選挙を行うことを周知済みであること、および今後の選挙スケジュールについての確認がされた。

18) 役員候補推薦委員会からの報告（福喜多理事、資料04-16）

福喜多理事より資料04-16を用いて、役員候補推薦委員会からの報告がされた。

19) 国際委員会の活動について（横井理事、資料なし）

横井理事より、国際委員会の活動の方向性として、現在のホームページをベースとして改良していくこと、その際外国人に魅力ある情報発信をするにはどうすればよいかの観点から改良方法を検討していくことが報告がされた。

また、山崎副会長より WCEE に関して以下の意見が出された。

- ・2020年のWCEEを東京（日本）に招致する活動に本会が積極的に関わりたい。招致委員会を新たに組織したい。
- ・3年後の開催地決定の投票に向け、2014年の日本地震工学シンポジウムやの世界各地域で開催される地震工学に関するシンポジウムにて、各国のキーマンに対して有益なロビー活動を行う必要がある。

上記意見に対して、この方向性で進めていくことが承認された。

20) 会誌編集委員会報告（久田理事、資料 04-17）

久田理事より資料 04-17 を用いて、会誌編集委員会の活動として、会誌 20 号および 21 号の進捗状況の報告がされた。21 号の特集として「南海トラフ巨大地震を考える(仮)」を検討しているとの紹介に対して、本特集号を使い講習会に活用してはどうかとの意見が出され、事業企画委員会と連携して検討を進めることが確認された。

21) News Letter Vol. 2, No. 3 について（富田理事、資料 04-18）

富田理事より資料 04-18 を用いて、News Letter Vol.2, No.3 について、特集および News Watch の内容が報告された。

22) 論文集英文化について（年縄理事、資料 04-19）

年縄理事より資料 04-19 を用いて、英文化論文集に向けての報告がされ、英文校正の方法について次回理事会までに委員会として案を提示することが確認された。

23) 受託研究の経費について（福喜多理事、資料 04-20）

福喜多理事より資料 04-20 を用いて、他学会の受託研究の事務経費について報告がされ、次回正副会長会議（11 月 13 日）で経費について議論することが確認された。

次回予定：平成 25 年 11 月 13 日 理事会 17：00 より

（場所：建築会館 308 会議室）

記録担当：総務理事 新海 元